

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

(1) [校長・教頭・事務長]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 挨拶の励行、皆勤・精勤者の増加、遅刻者の減少を図り、前年度より向上したことを検証する。</p> <p>② 学科改編・創立100周年・統合移転と西高校の大きな変革期にあたり、在校生は当然のことながら、保護者・地域の皆さんにも、西高校の情報提供の機会を増やし、理解をいただく工夫を推進する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>生徒指導部・各学年担任団・各学科・各教科の協力体制によって、登校指導・挨拶運動の実施・授業内での道徳教育等の取り組みを実施し、アンケート調査等により改善率を検証する。</p> <p>指標 今年度の皆勤・精勤率50%以上。1日当たり平均遅刻者数5人以下。</p>	C
<p>取組内容②【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>総務部・各学年担任団・各学科・各教科の協力体制によって、学校での学習活動の様子の広報に努める。</p> <p>指標 西高校のWebページでの情報提供を活性化し、週2回以上の更新に努める。また、新型コロナウイルスの状況によって検討を進めながら、説明会や体験入学、授業参観、文化祭、体育祭といった場面での外部公開の機会を可能な限り継続する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①臨時休業からスタートした影響で、規範意識や学校への帰属意識の低下がみられる状態からのスタートとなり、遅刻者数は思うように減少しなかった。しかし、感染防止策を十分に行いながら生徒会活動を工夫と努力・協力によって次々と実施・実現させてきたことで、生徒同士の結束力や生徒－教員間の信頼関係は確実に例年以上に強まっており、来年度以降の学習活動においても大きな効果をもたらすものと考える。
- ②西高校としての新入生の募集が最終となり、教育情報科2度目の募集にあたり、現在の1年生の教育活動の実績・活動の様子を、写真やムービーで広報に活用することができたため、本校の落ち着いた学習環境と生徒たちの自主性が育っている様子などを十分に理解していただいた。結果、一般入学者選抜では、あと1年で移転・統合というマイナス要因をもちながら、80名の募集に対して86名の出願を受け、かわらず支持されている状況を保つことができた。

次年度への改善点

いよいよ、現在の堀江で学習活動を展開できる最後の年を迎える。同時に100周年記念式典の開催や桜和高校への移転準備、府立への移管準備など、同時展開で取り組むべき課題が山積みとなっている。そのような中でも、移転・統合があることを理解しながら西高校で学ぶことを選択してくれた生徒たちが、西高校で卒業を迎えるまで、安心して学習活動に取り組める環境を提供し続けることが、来年度以降の大きなテーマとなる。移転後の施設・設備や信頼される教育活動を続けるための教員配置などの根本的な部分は当然ながら、教育情報科としての3年間のカリキュラムを完成させ、計画通りに成し遂げるため、気を引き締めて取り組まなければならない。

(3) [総務部]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 本年度の国際交流事業を、来年度につながる形で遂行する。</p> <p>② 国際交流事業として姉妹校2校との交換留学・相互訪問・受け入れを、新学科への移行を視野に入れながら、計画・準備する。</p> <p>③ 中学校訪問について、過去のデータを吟味し、適切な時期など訪問計画を策定する。</p> <p>④ 教育活動への保護者の理解を深めるため、学年懇談会や授業参観を実施する。</p> <p>⑤ 新入生対象のアンケートを実施し、その結果を踏まえて広報活動・体験入学などの内容を精査し、内容の充実に努める。</p> <p>⑥ 体験入学チラシ・学校パンフレット・学校紹介ポスター等を新しく作成する。</p> <p>⑦ 生徒の感受性育成の一助として、全学年を対象とした視聴覚行事を実施する。</p> <p>⑧ 図書室の環境整備に取り組む。</p> <p>⑨ 大阪市立中央図書館と連携して、生徒の読書習慣の育成を推進する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>姉妹校パークデール校の本校への受け入れの際に、全校的に意識を高める。</p> <p>指標 全校的に派遣人数を確保したうえで、受け入れプログラムの意義を校内に周知する。</p>	D
<p>取組内容②【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>今年度のベイビュー校への訪問団の派遣と来年度の受け入れにおいても両校が連携し、交互にスムーズに実施できるように調整する。</p> <p>指標 隔年で、パークデール校・ベイビュー校の受入れ・訪問を実施する。</p>	D
<p>取組内容③【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>当該中学校卒業生の本校在学生の状況などの資料を作成し、学校説明会や体験入学に来てくれた中学生の中学校一覧を作成する。</p> <p>指標 本校を受験する生徒の数が多し中学校へ可能な限り訪問する。</p>	C
<p>取組内容④【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>本校生徒の保護者や中学生・その保護者の本校教育への理解を深めることを目標に、生徒の普段の姿を紹介できるような授業参観や体験入学など企画する。また、PTAや後援会との活動をさらに活性化し、チーム西高の意識を高める。</p> <p>指標 授業参観と体験入学の実施時期を考慮し効率化を図る。PTA 実行委員会を開催し、活動の充実に努める。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>体験入学や学校説明会において、教育情報科の内容をさらにアピールできるよう学校紹介ビデオや体験内容の見直しをおこない、広報活動を積極的に推進する。また、新入生対象にアンケートを実施・分析し、それを踏まえてさらなる広報活動の充実を図る。</p> <p>指標 体験入学の内容を把握し、生徒の反応を調べ、今年度の体験入学に反映する。</p>	B

取組内容⑥【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】 各分掌から最新のデータを収集し、学校パンフレット、リーフレット(ポスター)を改善する。	B
指標 中学生に魅力が伝わるリーフレットやパンフレット、ポスターの作成。	
取組内容①【施策2 舞台芸術に親しむ機会の創出】 芸術鑑賞としてジャズの鑑賞会を実施する。	D
指標 ジャズに触れることで、舞台芸術に対する興味関心を高めるとともに、情操教育に役立たせる。	
取組内容②【施策3 学校図書館の活性化】 円滑な蔵書管理を行うために電算化の準備を進める。図書委員会を活用し、来館者数、貸出冊数の増加を図る。	B
指標 学校として読書感想文コンクールに参加することによって、読書習慣の定着をめざす。	
取組内容③【施策3 教育コミュニティづくりの推進】 大阪市立中央図書館の職員の方々と定期的に情報交換をしながら、生徒の読書習慣の定着につながる企画等を検討する。	B
指標 図書委員会で中央図書館への見学会を実施し、校内の活動に反映させる。また、大阪市立中央図書館の職員の方々と連携し、本の展示企画を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
教職員間、保護者、地域、姉妹校など、すべての面からの協力を得ることができ、新型コロナウイルス感染症の影響下でも可能な限りの対策を講じ、目標に近い成果を得ることができた。

次年度への改善点
新型コロナウイルス感染症のため実現できなかった事項についての調整・改善対策を強化する。西高校の歴史の中で激動年を迎えるにあたって、さらにフレキシブルかつ効果的な対応をめざす。

(4)【生徒指導部】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。</p> <p>② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心の育成を図るとともに警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。</p> <p>③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからでの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。</p>	B

③ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感を養う。 ⑤生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳教育の推進】 登校時の教職員全員による校門指導、昼休みの校内巡視指導、始業式・集会時の服装・頭髪検査と学期を通じた継続指導、携帯のマナー指導、遅刻生徒への面談指導、早朝登校指導、などにより道徳心・基本的な生活習慣を身につけさせる。 指標 遅刻者数1日当たり平均5人以下を目標に、基本的な生活習慣の定着を目指す。	C
取組内容②【施策2 人権を尊重する教育の推進】 毎月1回、学年と生徒指導部で連絡会を開催し情報交換を行い、生徒の状況を把握、いじめや問題行動を防止する。始業式、終業式において人権を尊重する大切さを訴える講話を行う。警察と連携し1年生への交通安全教育の開催、2年生へ薬物乱用防止教育など自己と他者の心身を尊重する意識を高める。 指標 いじめ・いやがらせ・交通事故0、安心して平和な教室、学校を目指す。	B
取組内容③【施策1 いじめ・問題行動に対応する制度の活用】 日々の生徒指導部と生徒とのやりとりの中で、一方通行の指導にならないように心がけ、生徒の気持ちを聞く余裕を持って指導にあたる。また、生徒指導部会等において他校と情報交換し問題行動の実態把握、未然防止に取り組む。 指標 長期欠席者や、欠席・遅刻の増加傾向にある生徒の把握とその生徒一人一人に対応するよう最善をつくす。	B
取組内容④【施策2 キャリア教育の充実】 合格者説明会、入学式当日の勧誘活動、部活動紹介を通じて体験入部を奨励する。月1回開催する部長会議においてリーダーシップを育成する。結団式を行うことで団活動の決意をかため、学年間の交流を深める。団長、生徒会役員のリーダーシップを育成する。年度内に次年度に向けたリーダー研修会を開催する。全生徒が部活動、団活動、学校行事へ自主的に取り組む姿勢を養う。 指標 学業成績では見えない生徒の長所の発掘・開発。	A
取組内容⑤【施策2 キャリア教育の充実】 生徒会定例会における計画立案指導、各種委員会の活動指導などにより、自主的な生徒会活動を実現する。行事ごとに、生徒会執行部等の活動を理解させる。風紀委員の早朝挨拶運動を継続する。 指標 年度ごとに特色のある計画を立案し、実行する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 目標を概ね達成することができたが、Cの進捗となった取組内容①については、校内全体とし

て規範意識の薄れ、学校に対する帰属意識の低下がみられた。コロナ禍の影響も受け、日常生活のバランスを取れず、乱れた生活習慣を立て直すことが難しい生徒が多数いたことが原因の一つである。また、指導の方針を転換し、一方的な指導ではなく納得をもって行動変容を促す指導にシフトしたことも大きな原因の一つであると認識している。

取組内容④については、精力的に学校をあげて、行事を実施することができ、多くのニーズを満たすことができたと考えている。クラス減や日程の調整等で、計画を相次いで変更を余儀なくされたが、生徒たちが存分に力を発揮してくれ成功に導くことができた。

次年度への改善点

遅刻欠席および服装頭髪を指標とする規範意識・帰属意識の低下を生徒の生活習慣や学校生活の中から改善指導を加えていく必要がある。時代の変化に沿いながらも本校生徒として身に付けるべきことを精査し、来年度の指導にあたっていきたい。

クラス減による影響を受け、学校行事は来年度も変更を加えることになるが、生徒の学校生活の充実には有意義な行事となるよう工夫することが求められている。学年や他分掌とも連携を取り合い、来年度の行事運営を進めていきたい。

(5) [進路指導部]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 新型コロナウイルスによる混乱の中、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・補習等を実施し学力向上をサポートする。</p> <p>② 進路説明会を実施し、進学に対する目的・目標や職業意識等を育成する。</p> <p>③ 経済悪化による求人数減少が予想されるが、指定校企業やハローワークと連携を密にしながら就職実績を継続させる。</p> <p>④ 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>進路面談を通じて生徒一人ひとりの希望を正しくとらえ、より適切な情報の提供・指導のもと進路実現を推進する。また、外部模擬試験の案内をおこない、客観的な学力の把握に努めさせる。</p> <p>指標 面接練習や進学書類の指導では、本年度立ち上げた進路委員会にお手伝いいただき個別指導の充実を図る。進学希望者には外部模擬試験の受験を勧める。</p>	B
<p>取組内容② 【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>各学年、様々な内容の進路説明会を実施し、学校や企業から講師を招くなど、進学・就職に関する各種説明会を行う。進学では本年度よりAO入試をはじめ入試制度が変更されるので、名称・実施時期の変更など理解の徹底を図る。</p> <p>指標 3年生にはAO入試・小論文対策講座・指定校推薦・大学共通テスト・看護医療系・公務員受験対策などの説明会を随時実施する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>ハローワークや労働局主催による就職ガイダンス、応募前職場見学・企業研究などを通じて職業観・勤労観を身につけさせる。</p>	B

<p>インターンシップ、キャリア教育等を実施し、職業観の育成を系統的・継続的に行う体制を整える。</p>	
<p>指標 新型コロナウイルスによる経済悪化の中、これまで就職している企業を中心に企業訪問を積極的におこない、これまで通り就職希望者内定率 100%をめざす。</p>	
<p>取組内容④【施策2 キャリア教育の充実】 高大連携事業を積極的に活用する。 大学の先生を招き、特別講義を通じて大学で学ぶことの意義を見出し、生徒の学習意欲や目的意識を高める。</p>	<p>B</p>
<p>指標 特別講義を開催し、多くの生徒の参加を促す。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>①3年生の進路指導に対しては個人面談から始まり、志望理由書や小論文の添削・面接練習・応募前職場見学の引率・プレゼン対策・応募書類の確認など、生徒一人ひとりに応じた指導が必要である。3年担任をはじめ進路委員会の先生方、そしてあらゆる先生方からご指導やサポートしていただいたことにより、ほとんどの生徒が自分の希望に沿った進路実現ができたように思う。 現時点では、在籍227名のうち、就職18名・4大114名・工専3名・短大14名・専門51名の進路先が決定している。</p> <p>②進路説明会には外部業者による学校説明会、進路教員からの就職・進学に対する進路講話、そして3年生が後輩に対する先輩講話を実施した。コロナの影響によりオープンキャンパスがほとんど開催されない中、対面方式での学校説明会は3年生にとって大学を直接感じることができる有意義な機会であった。また、外部業者 TAP には進学夏期講座として小論文講座を開いてもらい40名ほどの参加者があった。このような説明会などの“きっかけ”を多く持つことによって、生徒の進路意識向上につながると考える。</p> <p>③就職ではコロナの影響により入社試験日が1ヶ月繰り下がり、10月16日スタートとなったが、逆に応募前職場見学に参加できる回数が増えた。結果、1回目の試験において受験者のほとんどが内定をいただくことができた(合格率96%)。ただ、複数の辞退者がでたことにより会社に事情説明に出向き謝罪した。また、次年度はコロナ禍による経済悪化のため求人数減少が予想され、特に一人一社制の動向も含め指定校求人企業の動向に注視しておかないといけない。</p> <p>④高大連携大学である関西外国語大学・大阪経済大学ではコロナの影響により、日程や講習内容が大きく変更された。大経大は本校でのオンライン講座、関外大は春期・夏期を7月同時期開催で3日間に短縮・オンライン方式により実施することとなったが、本校のワープロ室で3日間受講した生徒もいた。2年生対象の関外大3月春講座については4日間の対面が3日間・オンライン方式に変更され、次年度もコロナ禍が続いている。</p>

<p>次年度への改善点</p>
<p>次年度やるべきこととして、100周年記念誌の作成・大学訪問(関大には3年間のシラバス提出)・新高校進路PJなどがある。大学訪問は教育情報科に対する指定校依頼の為、昨年12月から10大学に出向いた。近大は経営学部会計学科のため募集は次年度で最終になるが、その他の大学は継続して指定校をいただけるような感触である。また、本年度の大学入試改革で出願が11月からと決められていたが、実際には9月中旬出願開始の大学も数校あるために、校内締切日を決めることに困惑した。また、就職では一人一社制の是非がニュース等でも取り上げられており、正しい情報の周知が必要である。</p>

(6)〔健康教育部〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 美化・環境整備に関心を持ち、地域の防災リーダーになれるような取り組みを進める。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 環境を守る意識の醸成】 安全で快適な校内環境の維持をするため、校内巡視をし、危険箇所や破損がないか定期的にチェックする。	A
指標 保健委員や設備美化委員が活動の一環として定期巡回や校内放送等の活用を行う。	
取組内容②【施策2 道徳教育の推進】 行事ごとに、団活動を通じ活動場所の安全と衛生を保持する指導を徹底させる。	A
指標 担任・生活指導部・部活動顧問・生徒会の協力を得て、指導に取り組む。	
取組内容③【施策2 道徳教育の推進】 一人一人の生徒の成長に関わることでできるように、教職員間の連携を強め、情報や対応の仕方について協議を重ねながら共有できる体制づくりをする。	A
指標 生徒指導関係者会議、成績会議、定例の職員会議など機会に、情報を共有する機会を持つ。	
取組内容④【施策7 健康に関する現代的課題への対応】 感染症など広く健康について知識を持ち、かつ生涯にわたってよりよく生きるために、ソーシャルスキルを含めた基本的生活習慣の定着と、MHL(メンタルヘルスリテラシー)教育の充実・促進を図る。	A
指標 学校保健委員会でテーマとして取り上げる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
感染症対策を学校全体で継続的に取り組んだ結果、コロナクラスター発生を未然に防ぐことが出来た。保健委員による放送活動、設備美化委員、部活動部員による毎日の消毒の効果、意識づくりにつながった。学校保健委員会のテーマを危機管理にすることで保健委員の防災意識が向上した。職員間での生徒の情報共有に時間がかかった場合があり、早期対応ができるような体制づくりが望まれる。

次年度への改善点
防災リーダーの育成をさらに充実させたい。破損によるケガが増加しており、生徒への注意喚起、校内巡回による危険箇所・破損の早期発見に努めていきたい。生徒の情報共有のために、拡大生徒指導会議への参加、学年との連携を確立していきたい。

(7)〔人権教育推進委員会〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>限られた時間で、時代のニーズに即した身近な問題を取り上げるなど、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。</p> <p>P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携をはかり、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。</p> <p>教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。無理であれば、全校一斉の人権学習講演会に参加してもらう。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>L H Rを利用して、各学年に適した人権問題を絞り込んで取り組みをおこなう。</p> <p>指標 人権教育の年間指導計画より削減はせざるを得ないが有効的に実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>可能であれば全校一斉の人権学習の機会を利用して保護者にも参加をうながす。</p> <p>指標 可能であれば年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>可能であれば全校一斉の人権学習の講演会に教員も参加をして、研修をおこなう。</p> <p>指標 可能な限り全教職員が参加する。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全校一斉人権学習は当初、外部講師を招へいしての予定だったが、コロナ禍で実施できなかった。学年別では1年生『いじめ・拉致問題・オリンピック、パラリンピック』2年生『L G B T s』3年生『就職差別』『双方向ハラスメント』について学び、シートにコメントするか、全体の総括をして生徒に返却した。1年生・2年生についてはコロナ禍で2回から1回に減らし実施した。全校一斉人権学習は『SNSと人権・モラル』について学んだ。文化祭映像部門にて配慮を要する言葉があったのでなぜその言葉に配慮を要するのか説明した。</p>

次年度への改善点
<p>全校一斉人権学習は特別指導にかかわる事象にSNSが介在しているので、できれば外部講師を招へいしての講義、新型コロナウイルスの蔓延防止の観点からそれが無理な場合でも繰り返しSNSと人権に関するビデオ学習は継続するべきだと思う。</p>

(8)【英語科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 授業などで異文化理解の大切さを理解させ、姉妹校への語学研修やホームステイ申込者数を、前年度より増やす。</p> <p>② 英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させ、訪問団との交流の参加者数を、前年度より増やす。</p> <p>③ 英語で発信することの意義を学ばせ、スピーチコンテストなどへの参加者数を、前年度より増やす。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>CNET との授業や、異文化理解を促す教材を用いて、異文化理解を深め、個人やグループで世界の様々な問題を話し合い、自らの意見を発信する機会を増やす。</p> <p>指標 少人数セミナーで、文化の違いを尊重しあえる授業案を作る。また、姉妹校交流等への積極的な参加を促す。</p>	B
<p>取組内容②【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>授業で積極的に英語を用いてコミュニケーションをする活動を増やし、海外からの訪問団受け入れの際に積極的に交流に参加できるようにする。</p> <p>指標 授業でペアやグループ活動を増やし、コミュニケーション力を高める。</p>	B
<p>取組内容③【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>スピーチ活動やディスカッション活動で、自分の意見を英語で発信する意義を学ばせ、その能力を養う。</p> <p>指標 少人数セミナーで、スピーチやディスカッションの活動を多く取り入れる。また、スピーチコンテストへの積極的な参加を促す。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>各学年、各学科の授業において、インタビューテストの実施や、プレゼンテーション、言語活動を行った。ペアワークやグループ活動を通して、コミュニケーション能力を高め、協力して活動する姿勢がより一層深まった。姉妹校とオンラインにて交流活動を行った。</p>

次年度への改善点
<p>多文化共生教育、異文化理解を深める活動、教材をより充実させる。姉妹校とのオンラインでの交流活動を定期的に行う。</p>

(9)【流通経済科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。（見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者各学年10名以上）</p> <p>② 「ビジネスマナー」や「マーケティング」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。アクティブラーニングを多種多様に取り入れ、実際に地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域や中学校での認知度を高める。3年次に学科全体で取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>多種多様なアクティブラーニングを取り入れる。外部講師による講座を積極的に取り入れ、通常授業では得られない体験をさせる。また、地域でのイベントや販売実習を通じて、接客マナーを学ぶとともに、問題解決能力を身につける。地域や企業などの協力を得て活動し、コミュニケーション能力を育成し、かつ本校の流通経済科の活動について認知度を高める。</p> <p>指標 講演会や販売実習など合わせて年3回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>校外の活動や本校独自の高大連携事業を活用して、大学の見学会や体験講義に参加させる。また、各大学で行われるコンテストなどにも積極的に参加させる。生徒が大学教育に興味・関心が持てるように、進学を希望する生徒の目的意識を高める。</p> <p>指標 大学の見学会、講演会、コンテストなどに10名以上の生徒が参加する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>体験授業、学校説明会などの体験学習に在校生をアシスタントとして参加させる。実習を通じて、在校生自身で本校の学習内容等を伝えることによって、在校生のプレゼンテーション能力を高め、中学生の本校への理解が深められるようにする。</p> <p>指標 在校生10名以上が参加する。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>コロナ禍において実習などが制限される中、グループワークやオンラインを駆使したアクティブラーニングを取り入れて授業などを組み立てた。</p> <p>3年「広告と販売促進」では外部講師による2回の講演、九条商店街でのシャッターアートの実習を行った。地域や企業などの協力を得て活動し、コミュニケーション能力を育成し、3社の新聞掲載により本校の流通経済科の活動について認知度を高めることができた。</p> <p>追手門学院大学との高大連携プログラムとしてオンライン大学見学交流会を行った。</p> <p>2年生マーケティングではマーケティングの知識を盛り込んだプレゼンを個人で全員が行った。実習はできなかったが、自分がその商品・サービスを世の中に広めていくという思いでプレゼンをさせることで、講義での学びがビジネスの世界で実際に活用できるということを感じさせることができた。</p>

次年度への改善点
<p>3年2クラスとなるが、流通経済科としての活動は、縮小することなく実施していきたい。検定取得と校外活動を主軸において、個々の生徒の能力をのばしていく。</p>

(10) 〔情報科学科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。</p> <p>② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道徳心の育成を図る。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>SNSを利用する際に発生する人権に絡む事象や知的財産権について、いくつかの事例を挙げながら、利用者の視点だけではなく技術的な側面からも理解させる。</p> <p>指標 SNSに絡んだ問題事象を減少させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ネットワーク通信の技術について正確に理解させるとともに、それを管理する者の責任と義務についても自覚させる。また、道徳教育・キャリア教育を意識した実践を行う。</p> <p>指標 情報技術についてモラルを守った上で有効に活用できているか確認する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>各専門科目の授業の中で事例を取り上げ、情報モラルや人権尊重について理解を促している。コンテンツを利用した作品制作の際には、フリー素材を使用するなど著作権を特に意識させるように指導している。</p>

次年度への改善点
<p>人権を尊重する教育は一定の成果を得ることができた。多くの生徒がSNSを利用している現在、情報科学を学ぶ生徒として、ネット社会との安全な付き合い方や管理する者の責務と義務についての教育を、引き続き実施していきたい。</p>

(11)〔教育情報科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 教育探究の授業において生徒間でコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な分野にわたる興味関心を深め、リーダーシップの醸成を目指す。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進】</p> <p>教育探究の授業において、生徒間のコミュニケーションをとる機会を多く設け、安心して発言できる環境を作る。さらに、自己理解、他者理解を深める内容を計画する。</p>	B
<p>指標</p> <p>生徒が授業内で自由に積極的に発言できる雰囲気ができている。 自分の興味関心がどこにあるのかを意識する生徒を増やす。</p>	
<p>取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進】</p> <p>教育探究の授業において、クエストエデュケーションを核として取り組み、生徒の興味関心がある分野への意識を深めていく。</p>	B
<p>指標</p> <p>自分の興味関心がどこにあるのか意識する生徒を増やす。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>教育探究の授業は、スタート時、分散登校で行事が何もおこなわれない中で、唯一の生徒間コミュニケーションの場として十分な環境を提供できた。コミュニケーションをとることが苦手な生徒が非常に多く、当初は、グループワークや人前での発表にことごとく拒否感を出していた。しかし、英語の発表も含めてグループで3回、個人で2回のプレゼンテーションをおこなっていくうちに、少しずつ慣れていく生徒も増えた。最後の個人プレゼンにおいてはテーマ設定に多くの時間を費やしたことで、個人の興味関心を探し、深めることに役立てることができた。また、授業外でも夢ナビを使ったり、多くの教科の先生方の指導や助言が入ることで、多種多様なテーマ設定に導くことができた。このように、教育探究の授業で安心して発言できる環境作り、自己理解、他者理解を深める活動がかなり効果的にできたと考えられる。</p>

次年度への改善点
<p>想定内ではあったが、テーマ設定には多大な時間が要され、調査研究の時間が不足した。個人の興味関心を深めていくのは、調査研究よるところが大きく感じられるので、その時間を確保するためのスケジュール設定が必要である。また、教科横断で関わっている教員が多かったにも関わらず、その専門性を全員に向けて活用できる機会が少なかったのは反省点である。</p>

(17) [保健体育科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>①用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、安全な環境づくりへの意識を高め、正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努める能力を高める。</p> <p>③ 実技授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全教育の推進】</p> <p>用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、安全な環境づくりへの意識を高め、正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努める能力を高める。</p> <p>指標 安全管理に対する意識の向上について確認する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>実技授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる</p> <p>指標 友人との声かけを積極的に行うことで、他人とのコミュニケーション能力向上について確認する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>ルールを遵守し、安全にスポーツを楽しむ姿勢を養うことができた。集団行動での自己の責任を考え、規範意識、協調性、社会性を向上させた。</p>

次年度への改善点
<p>コロナ対策の影響で、十分に実施できなかった数々の授業を次年度で補いながら、生徒の身体の健康を増進し、精神的に自立できる身体の育成をめざしていく。</p>

(19) [1 学年担任団]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒80人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。</p> <p>② 学校行事やホームルーム活動、教育探究の授業を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。</p> <p>③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ホームルームを3人の担任団で回す。生徒たちには学科長を含めた4人全員が自分たちの担任であるという意識に持っていき、相談しやすい教員にそれぞれが相談ができる状態にする。4人の教員も80人全員の担任であるという意識を持ち、4人のうち誰かが、生徒の変化やサインに気付けるようにする。</p> <p>指標 80人の生徒の情報を4人の教員が平等に認識している状態にする。 年間生徒1人につき最低2回の個人面談を実施する。</p>	C
<p>取組内容② 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>学校行事やホームルームの中で自分と異なる考え方の存在を理解するよう働きかける。教育探究では自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションの練習を行う。</p> <p>指標 集団の意味を理解し、各個人が自分の役割を把握して、自発的に集団活動に参加する。80人全員がクラブ活動、生徒会活動、課外活動などの集団活動に参加する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>保護者や関係部署との連携を密にするために、3者面談を全員と1度は実施する。ICTを活用した保護者への情報提供の徹底。</p> <p>指標 指導方針の理解と協力をいただけるように、各学期に教育相談を実施する。 定期的に学年通信を発行する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>4人の教員による生徒指導、3人の担任制は1年間で生徒には浸透できたと思われる。1人でクラスを見ていくよりも間違いなく多くの生徒への声掛けができた。全員との2回ずつの面談はできなかったが、必要に応じ、複数の教員で個別面談を実施する機会は多く持つことができた。全員の保護者と1回以上の個人面談を実施できた。</p> <p>多くの個性が共存する集団の中で、とまどいを感じ、苦しんだ生徒がたくさんいた。教育探究の授業内では繰り返しグループでのコミュニケーション活動を行うことができ、今年、学校行事内でのクラス活動が大幅に減った部分をカバーできたと思われる。</p>

次年度への改善点
<p>進路意識を高めていくために、また、生徒の変化に速やかに対応していくために、今年度以上の細やかな面談を行っていきたい。保護者との関係性についてはあまり意識できなかったため、対策が必要。</p>

(20)〔2学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての「マナー」をしっかり身につけ、自発的に「ルール」「時間」「約束」を守ることができる人間形成を行う。欠席・遅刻を減らせるよう自己管理を徹底させる。 ・学校行事・部活動など、特別活動へ積極的に参加し、上級生としてふさわしい集団行動での自主性や協調性、リーダーシップを身につけさせる。 ・日頃から保護者や地域社会および関係部署との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時には、状況の把握、迅速な対応、円滑な解決に努める。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>様々な場面でルール、マナー、時間、約束を守ることの大切さを指導する。また、自己管理によって基本的な生活習慣が確立できるよう指導する。</p> <p>指標 昨年度よりも遅刻、欠席の数を減少させ、年間精皆勤率 60%以上をめざす。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>学校行事・部活動など、特別活動への積極的な参加を促し、その活動の中で、上級生としてもふさわしい自主性や協調性、リーダーシップを発揮できるよう指導していく。</p> <p>指標 各行事への積極的な全員参加と、全体をまとめるリーダーの出現。団活動で上級生を補佐するサブリーダーの出現。2年生からの部活動への加入を勧める。</p>	B
<p>取組内容③【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>日頃から保護者や地域社会および関係部署との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時には、状況の把握、迅速な対応、円滑な解決に努める。</p> <p>指標 保護者との適宜の連絡や懇談の実施。学年会・生徒指導部などとの適宜の連絡会の実施。問題発生時の迅速、的確な各部署との連携。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全体的には本校のルールやマナーを理解して守ろうとしているが、中にはまだ遅刻指導や生活指導が必要な生徒もいるので、教員間の連携や家庭との連携を十分に取り、根気強く改善に向かうよう努めている。各行事では、委員を中心として様々な活動を主体的にこなした。校外学習や団活動でも、各生徒が自主性や協調性の面で成長しているし、リーダー、サブリーダーも徐々に現れてきており、次年度に向けて期待が持てる。</p>

次年度への改善点
<p>次年度は最後の3学科で迎える最高学年である。今年度、コロナ禍の中で生徒が成長してきた流れを上手く活かしながら、生徒との対話を重視し、生徒が主体的に行動できるように日々の指導を継続していきたい。</p>

(21)〔3 学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 自主的で良好な基本的生活習慣の確立をめざす。</p> <p>② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。</p> <p>③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。</p> <p>④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>自主的で良好な基本的生活習慣を確立し、遅刻・欠席を減少させ、自己管理を徹底させる。</p> <p>指標 心身の健康管理の大切さとその方策を伝える。また各クラスにおいて遅刻、欠席の減少をさせ、自己管理を徹底させる。年間精皆勤率 60%以上をめざす。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。</p> <p>指標 挨拶や正しい言葉遣いを徹底させ、安全で快適な校内環境の維持をする。また登下校中の交通事故等をなくす。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>部活動・生徒会活動・団活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。</p> <p>指標 最高学年の上級生として下級生への模範となる意味でも、各行事への全員参加を促す。</p>	B
<p>取組内容④【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。</p> <p>指標 学年会と生徒指導部との連絡会を通じて適宜懇談を実施することで、迅速で的確な指導を徹底する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全体的には本校のルールやマナーを理解して守ろうとしているが、中には遅刻指導や生活指導が必要な生徒もいるので、教員間の連携や家庭との連携を十分に取りながら、根気強く改善に向かうよう努めてきた。また学校行事や部活動については、生徒たちが最高学年として主体的にリーダーシップを取って取り組んでくれた。成績や進路についての懇談も、保護者と連携しながら円滑に進めることができた。</p>

次年度への改善点
<p>常習的に遅刻・欠席を繰り返す生徒について、保護者と連携を取りながら根気強い指導を続ける必要がある。</p>